

ハンドクワン
ア
パーリン

古堅中学校 二年二組 游佐 璃玖

一九四五年四月一日。午前八時三〇分。アメリカ軍は、ここ読谷村から本島上陸を開始しました。

あの戦から七〇年。節目の年を迎えた去年二〇一五年。僕は古堅中学校七〇期生として中学校生活かスタートしました。

そして、社会科担当の宮城 美津先生と出会いました。

中学校生活二か月かた。去年二〇一五年六月。沖縄戦が終結した六月。そして、戦後七〇年を迎えた二〇一五年。平和月間が始まり、平和学習がスタートしました。

「平和って言うものは、平和月間から考えるのではなく、常日頃考えなければいけないものです。」

これは、平和を愛する美津先生が僕達になげかけた言葉です。

この言葉に衝撃を受け、僕は二ユースや新

聞を読むことが習慣づきました。
 そして、美埜先生が作った「平和を考へ隊」での活動に参加しました。
 平和を考へ隊では、戦争のころの生活を学び、平和とは何なのかを考える活動を行いました。
 そんな時日本は、「辺野古基地問題」や「集団的自衛権・安保法案・憲法九条改正案」などで、武力を行使することができるような政治を目指し始めました。

この事実を知った僕は心を痛め、こんな政治にしてはいけないと思うようになりました。
 いよいよやってきた夏休み。
 平和を考へ隊の活動も本格化し、休みを使って、「読谷の戦跡めぐり」をしました。
 読谷村史編集室の上地さんと「読谷村民俗資料館」のみらいさんにご招待してもらい、米軍上陸の地である渡具地の浜をはじめ、マヤ壕、艦砲の喰え残さあ、の歌碑などをめぐりました。

戦跡めぐりで「読谷は平和を愛する村」と感じました。

なせなら、読谷村には戦争について考えさせられる碑がたくさんあり、その中でも「憲法九条の碑」があります。

この憲法九条の碑は、
「読谷は憲法九条を必要とし、守ります」という沖縄でも日本でも数少ない、すばらしい碑です。そして、この碑の上には、「過去から学び、未来にはばたく」というメッセージ

が込められた、「芽」の彫刻があります。

平和を考え隊では、たくさんの方を学ばせられました。

しかし、自分が知っているだけではいけません。多くの人に学んだことを共有しなければいけません。

その手段として、文化祭の舞台でこれまで取り組んできたことを劇をおり混せて発表しました。

さらに、古堅中学校七〇期生で、

「私たち吉中生は、平和を守るため、気づき・考え・行動します！」
 と、平和のメッセージを発信しました。
 二〇一六年六月二三日。七一年目の慰霊の日。沖縄戦終結から七一年。
 戦争体験者の高齢化により、体験談を語り継ぐのが困難になっています。
 だからこそ、「気づき・考え・行動する」の精神を忘れずに、僕達も平和を築いていかなければならぬと思います。

戦争体験者の声に僕達は、耳を傾け、それを伝えていく活動を実践していきたいです。
 戦争を体験していない僕達が、伝える事は難しいかもしれませんが、語り継ぐことか僕達の使命だと胸に刻み込み、これからも平和な社会を目指して、発信していきます。